



### ■松尾宏会員

昭和38年3月生まれ

38年をインターネットで調べると豪雪、北陸地方で84人死亡雪が降って死亡ということはどういうことか家でもつぶれてしまったのかと思います。また、12月8日には力道山が刺されて死ぬという事件がありました。

今年卯年ということで、亡くなった長女が卯年、平成11年に生まれた次女も私もうさぎ。ちなみに妻が37年生まれ寅。ご想像の通りトラに追いかけられながらウサギが逃げまどうといった状態です。

さて、きょうは昨年起きた我が家の出来事について話をさせていただきます。

新入会員卓話でもお話ししましたが、平成5年に妻がくも膜下出血になりその時は手術をして元気になったのですが、実はもう一つ動脈瘤があったんです。

昨年まで7年間、毎日朝昼晩血圧を測り、食事にも気をつけながら自己管理をしてきました。その当時の担当医は、この動脈瘤は破裂することがないから経過観察で十分大丈夫ということで、妻もその言葉を信じて頑張って参りました。

そうはいっても前回破裂したのも0.2mmでこの動脈瘤も同じ0.2mmだから、もしかしたら何か起きるかもしれない。前回の手術の時に聞いていたのが、1回目でダメージを受けているのでもう1回破裂すると必ず死に至るといわれていたの、なにかいい方法はないかいろいろと考えていました。毎日心配しながら血圧を測る妻の姿を見ていて大変辛い思いでいました。平成6年ころでしたか、テレビを見ていたらスーパー

ドクターという番組で動脈瘤治療の素晴らしい先生が旭川赤十字病院におられるということを知りました。上山博泰先生とって、(脳腫瘍手術で有名な)福島先生がもし私に動脈瘤があれば上山先生にお願いしたいと言わしめた匠の手を持つカリスマ医師として有名です。

それを昨年4月に妻に話をして“診てもらったらどうか”という、本人もそれを心待ちにしていたのかもしれませんが、“いいの?”と聞き返しました。自分自身どうしたら生き延びれるか妻なりに考えていたようで、目が覚めたときあまだ命があったなどと思うような日々不安の中で生活していたのだと思うと、いくら借金してでもなんとかしてやろうと思いました。

それで、兄嫁と一緒に北海道に行かせましたが、上山先生の外来は火曜のみで全国から動脈瘤のある方がたくさん行かれるし、急患が入ると診ていただけないかもしれないし予約もできないという中、一か八かで出掛けました。運良く検査のあとで診てもらおうことができたのですが、その時間が夜の9時40分だったそうです。

上山先生は、MRIの写真を観ながら「貴女がここまで私を頼って来られるということは手術を希望されているんですね？」といわれました。妻が「先生でも、これ0.2mmなんで経過観察で良いといわれたんですがどなんですか？」と逆に聞くと、「動脈瘤があるということは、破裂しない確立は0だ。前回0.2mmで破裂したんだから、今回もいつ破裂するかわからない」といわれ、手術をお願いしますと頼んで帰ってきました。

しかし、手術をするといっても上山先生の場合400人待ちということで手術の日取りは全くわからなく、病院の話では手術ができる1週間前に連絡するということでした。

いざ手術をするとなると万一の時どう思っているのか妻に聞いてみました。私は、自分の命に覚悟はできている。10歳の娘の面倒をあとみてくれれば上山先生に命を預ける覚悟はできている」といいますので、私も安心をしました。

そうこうしているうちに7月15日ころ電話があって、7月29日

に手術をしますということで、手術となると私も行かなければと妻と子供と7月27日病院に入りました。

28日検査を終え看護師さんが上山先生から手術前のお話がありますが、時間は何時になるかわかりませんということでした。わからないといっても恐らく夜の10時頃にはできるだろうなと思ってました。一旦ホテルに帰ってもらって云いといわれ、また9時半頃病院に戻ってきたのですが、結局お話ししてきたのは夜中の1時40分でした。それまで先生はずっと手術をされていて、火曜日の外来に来られている患者さんも終わるまでずっと診察されるんだそうです。

その時始めて上山先生とお会いしたのですが、テレビで見るとおり大変気さくな方でした。先生は、「松尾さん、奥さんの動脈瘤は目の神経に近いところにあり癒着の恐れがある。その癒着がひどかったら手術は止めます」といわれました。上山先生は、師匠から習った“後遺症が残る手術は止めた方がいい”という主義を尊重されており、その方針に従うしかない私たちはお願いしますといいましたが、その後先生が私もプロですからといわれて少し安心しました。

ちょうど7月28日、救助ヘリが墜落したというニュースが流れていたのですが、その話題について話をされました。救助ヘリで命がけで患者さんを助けにいく救助隊員というのはすばらしい。私たち医師は、その患者さんを待っている立場だ。逆に救助ヘリに乗って自分の命の危険を冒してでも患者さんの命を救いたいというようなことを話されました。結局、話が終わったのが夜中の2時半でした。2時半まで話をしておられ、次の日は普通通り出勤されているようで、1日に4時間しか寝られないそうです。

64歳になられる先生が、体力を維持されながらそこまでやっておられる姿をまのあたりにして、素晴らしい先生に出会えたなと確信しました。

次の日、9時半に手術室に入る前、ガンバレよと声をかけました。10歳の娘も小さいながら唇を青くさせながら不安な気持ちで送り出したのだと思います。昼過ぎに手術を終えた妻が帰ってきたとき思ったのは、平成5年に手術したときには、丸坊主だった頭に髪の毛がちゃんとあったことでした。7年の間に技術が進歩して、頭皮を1cm切るだけで手術ができるようになっていました。ただ、その時は手術ができたのかどうかさえわからなかったのがそれが心配でした。かたことの話はできたので、娘が駆け寄りまず聞いたのは、ママ何年生まれ?でした。ちゃんと受け答える妻に娘もようやく安心したようでした。

そのあと上山先生から話があって、手術は無事終了、動脈瘤が目の神経に癒着しており難しく、クリッピングを2ヶ所して、前回のクリップも交換したということでした。

そして、いい時期だったですねといわれました。0.2mmの動脈瘤の先がもう薄くなり赤くなっていて、いつ破裂しても不思議でない動脈瘤だったんだそうです。その話を聞いて、命の導きにより妻は守られているような感じがしました。

卑しい話なんですけど、こんな素晴らしい先生に手術してもらっていったい医療費はいくらなんだろうと心配をし始めました。借金してでもとあれほど思っていたのに、いざ終わると今度はお金のが心配になってきましたが、結局25万くらいで全て終わり妻も元気になってくれてほんとよかったですと安心しました。

皆様方の中にもそういった動脈瘤の心配をしている方もおられると思いますが、万一北海道にでもとお考えの方がおられましたら、私の知っている限りでお話させていただきますのでご相談いただきたいと思います。

ありがとうございました。

2011年 1月27日(木)

第 26号

本日のプログラム

新年家族例会

次回例会

2月3日(木) 12:30~ 三次商工会議所

次回プログラム予告

新入会員卓話

## 例会記録・・・1月20日

- 点 鐘・・・・・・中川筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「我等の生業」
- ビジター・・・・・・町里文孝様(三次中央)・奥田卓三様(吉舎)



会長挨拶

■中川 筆之 会長



改めまして一週間のご無沙汰です。例年に無い大雪です。今朝の冷え込みも厳しく暦どおりの大寒です。体調に気をつけて下さい。

さて、三日前の朝のNHKニュースでジョン万次郎こと中浜万次郎を主題とした単行本がアメリカの東海岸、万次郎がアメリカに居たときの地域ですが、ブームになっていると報道されました。どうして注目されてるかと言いますと、人種差別や偏見のひどかった当時のアメリカにたった一人でそれに立ち向かい乗り越えて地域の人たちにその存在が認められるまでの万次郎の苦難に習うべき事があるとのこと。ニュースで地元の小学生がインタビューで、万次郎が差別を受けても受けても、差別をした人を、避けるどころか人と人との絆を深めようと逆に近づきそれをやり遂げた姿に深い感銘を受け、自分もいやなことから逃げないで学校生活を送りたいと語っていました。

万次郎の記事は昨年のロータリーの月刊誌にその玄孫に当るかたの記念講演誌に同じような事の記載が載っていました。

今年もしくは来年に掛けて改めて万次郎を見直そうとの動きが有るとNHKのラジオニュースで流れていました。いまの日本人が見失った物を見つけることができるかも知れません。是非そう言った欲しいと願うのは私だけでしょうか。本日は以上です

## 幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

- 4月22日～23日 R I 第3690地区(韓国)地区大会出欠の回覧
- 5月21日～R I 国際大会ニューオリンズ出欠の回覧
- 本日例会終了後、理事役員会を開催します。

## 出席報告 ■明山 晃映 委員長

1月6日の出席報告					本日(1月20日)の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
44	33	2	5	86.36%	44	26	5	13

Make-up 山下会員(吉舎)・伊藤会員(福山ローターアクト)

## 委員会報告

### ■山下会員

小林RCの50周年記念式典並びに祝賀会への出欠表を回させていただきます。  
3/12ということでPetsと重なるんですが、君田交通のジャンボタクシーで参りますのでぜひご出席を。

## SAA報告 ■為石 肇 副SAA

スマイル1,000円

町里文孝 新年今年もよろしくお願いします。

## プログラム

## 年男卓話



### ■児玉敏宏会員

年男卓話、久しぶりの卓話です。よろしくお願い致します。  
生年月日は1963年 昭和38年1月19日です。ほやほやの48歳になったばかりです。

おぎゃーと生まれたところは、三次産婦人科で取上げていただいた先生は現在、休会されておられます、西村先生です。現在こうして、同じRCに所属しているのも、何かのご縁だと感じる次第であります。

この年は三八豪雪と言われる大雪の年だったそうで、母から聞いた話では布野の先の横谷から同じ頃入院された方は、出産後4月までおられたくらい大変な大雪だったそうです。

私は地元三次高校を卒業後、大阪の近畿大学へ進学し、何とか4年で卒業し大阪で鉄鋼関係の会社に就職しました。

今日は48年間の中で、入社仕立てのその時代のことを少し紹介させていただきたいと思えます。

社会人としての第一歩であり、8年間しか在籍しておりませんが貴重な経験をさせていただきました。

営業志望だった私は、甲子園の工場約5ヶ月間勤務し、急に東京支店に配属されました。

1985年、昭和60年です。ちょうどバブル経済がはじまる頃でした。

深夜の新幹線で東京駅に着き、指定された神田のホテルが見つからず、大変寂しかったことを思い出します。

当時の悩みは、営業を全く知らない新人の私は、大変厳しい部長と課長の下に配属され、慣れない関東弁を使われ、道も分からないのに迷うと怒鳴られ、厳しい売上ノルマを課せられ、夜はマージャンに付きあい、給料の半分を持って行かれ、用意されていた当時の住まいは、池袋でしたがぼろぼろで当然お風呂もなく、6畳一間に小さな流しが付いた家賃3万5千円のアパートでした。

当時の会社の駐車場の家賃が5万円で、なんで人間が車より安い住まいなのか納得がいきませ

んでした。このように、転勤当時は最悪だったことを思い出します。

しかし、いつかは「上司を見返してやる」との思いや、次第に新しい取引先も開拓でき、メーカー商社との人間関係などで売上もUPして、楽しい東京での生活に変わったことも思い出します。

住まいは亀有ですが新築マンションで家賃は6万5千円、営業に使う車も電話付き。

接待費の大幅UPには羽目を外しました。マージャンでの負けはゴルフのにぎりで取り戻し部下も四人任されるようになっていました。1991年 平成3年の頃でした。

今振り返ってみますと、バブル経済に助けられ、環境が良くなったことは自覚していなかったと思います。救いは、株や不動産に手を出さなかった、いや出す金がなかった事だと思えます。

営業マンは売上を上げて認められる訳ですが、今振りかえってみますと「出会った人とのご縁」をどれだけ活かす事ができたかが、大切だったように思います。

お陰様で当時のお客様や大嫌いだった上司や部下とは現在でも交流し、当時飲み過ぎて電車がなくなり上野のカプセルホテルに良く泊まったことを懐かしく話をします。

何よりそのご縁で、女房と一緒になれたきっかけも、クリスマスイブに急なクレームで栃木県の工場にトラックで納品することになり、その帰り道が、たまたま彼女の家の近くだった事からでした。

「世間や友人は楽しく遊んでいるのに」とぶつぶつ思っていました。もし、あのユーザーからクレームがなかったら彼女と出会うことはなかったでしょう。人とのご縁とは本当に判らないものです。これからも、良いご縁を見逃さないよう気をつけたいものです。

おわりになりますが、50歳を目前に、日々衰える身体の、体力向上を目指し、酒の席での事です。佐々木先生と約束をしたミニマラソンに挑戦することと、RC親善野球のガバナー杯で1勝することを目標に今年もがんばりたいと思っております。

ご静聴、ありがとうございました。